

「川と水の恵みに感謝し生かす」

中津市長 奥塚 正典

中津市には、1 本の川が源流から河口まで流れています。古くから人々の暮らしと共にあった「山国川」です。耶馬日田英彦山^{やばひたひこさん}国定公園の英彦山（大分県・福岡県境）を源流とする水が滔々^{とうとう}と 56 キロ流れ、瀬戸内海^{すおうなだ}の周防灘に注ぎます。

河口には、黒田官兵衛が築いた中津城がそびえ立ち、英彦山の麓には、歌舞伎^{けやむら}「毛谷村六助」で知られる毛谷村、中流域には、江戸後期の歴史家で詩人の頼山陽が描いた耶馬の数々の溪谷、菊池寛^{おんしゅう かなた}の「恩讐^{おんしゅう}の彼方に」で有名な青の洞門があり、川に沿った地方文化と歴史を語るには事欠きません。

そして、ここにはもう一つの素晴らしい資源として、山国川に並行して走っていた旧鉄道敷跡を活用したサイクリング専用道路があります。日本新三景に選ばれた名勝耶馬溪と山国川のせせらぎの自然を満喫しながら安全にサイクリングができる全長約 36 キロの素晴らしいコースです。昨今の自転車ブームもあり、サイクリングロードの活性化会議を立ち上げて、そのPRと活用を図っています。「川と道のコラボ」です。

この山国川水系には「耶馬溪ダム」があります。このダムの水は、市民の水がめとして、また、約 50 キロ離れた北九州市にも上水道の一部が導水管で送られ 20 年がたちます。この水を縁に北九州市からの提案で、北九州市と中津市を結ぶウオーキング大会を今秋 10 月 29 日に開催します。北九州市など 3 市からスタートした 3000 人の方が水源をたどり中津城を目指します。1 本の川と水が作り出す「県間・都市間のコラボ」です。

一方、山国川は、4 年前、九州北部豪雨による大水害に 2 度も見舞われました。これまで河川の復旧・復興を行い、護岸整備や河川改修など災害への備えを強化してきました。国、県、市一体となって、防災に努めています。

今後とも、山国川の恵みに感謝し、それを生かし、水害への備えを怠らず、水系の上・下流域が一体となって、県外地域との交流も深めながら、地域振興を図ります。